



スコット・キャロンの

ニッポン応援団



日本のインベストメント・チェーン(投資が社会の富につながる一連の流れ)にまた新しい好循環が生まれた。2月、パナソニック企業年金基金とエーザイ企業年金基金が「スチュワードシップ・コード」(機関投資家の行動規範)の受け入れを表明したのである。

2014年2月のコード制定以来、企業年金によるコード受け入れは7基金にとどまり、そのうち6基金が金融機関系で、事業会社はセコム企業年金基金のみであった。今回の事業会社2基金のコード受け入れ表明は大変意義深い。

☆—☆—☆—☆

スチュワードシップ・コードでは、アセットオーナーと運用機関で期待される役割が異なる。運用機関に求められる責任は主に①上場企業の中長期的な価値向上に資する建設的な対話とそれに耐えうる深い事業理解②利益相反の管理・防止③議決権行使の開示——であるが、年金基金などアセットオーナーは、最終受益者の利益を守るための運用機関に対する実効的なモニタリングが中心である。

3基金をフロントランナーとして、この流れが他の事業法人の企業年金にも波及していくことを心から期待している。

また、もう一つの良い流れとして「コーポレートガバナンス・コード」の改定と「投資家と企業の対話ガイドライン」の策定が本年6月の株主総会シーズンまでに予定されている。私も会議メンバーを務めさせて頂いているが、毎回、侃々諤々(かんかんがくがく)の建設的な議論が会議でも繰り広げられている。

振り返ると2012年の第2次安倍晋三内閣発足以来、わが国では持続的な経済成長のための様々な改革が実行されてきた。これらは日本の将来を形作るために必要不可欠な改革である。痛みを伴う改

未来志向の改革と日本らしさ

革もあるが、所得や介護などの問題を抱える方々のセーフティーネットをしっかり整えるならば、改革には大賛成である。

一方、このような未来志向の改革とは別に、変えてはいけないものもある。長い歴史の中で深化してきた、謙虚さと美しさあふれる「日本らしさ」である。

日本のセーフティーネットの高さは他国に誇れる水準であり、日本らしさの一つでもある。国民皆保険は国民にとって最も重要な「生きる力」を保障していると言っていいであろう。世界トップクラスの医療水準でありながら、医者を選ぶことができ、どこでも医療行為を受けることができる。乳児死亡率が先進国で最も低いなど好例を挙げればきりがない。私もこれまでに欧・米・アジアなど各国に住んだ経験があるが、日本ほど安心して生活できる国はないと実感している。

加えて、弱者、格差に対する配慮も日本らしい。日本人の他者を思いやる思考と行動は人間本来の性質であり、人間が人間として助け合って生き続けるためになくてはならない。「一期一会」で表されるおもてなしの精神は、日本人の日々の生活に根差している。

☆—☆—☆—☆

今回で私のコラムは最後となる。私は、日本人の優しさや内なる強さを心から尊敬し、わが国の潜在的なソフトパワーを信じている。それゆえ、「ニッポン応援団」の気持ちをもってこのコラムを書いてきた。

「JAPAN」は、日本の方々が想像しているよりも、世界で大変高く評価され信頼されている。これからも、優しく、美しく、そして強いJAPANが活躍し、世界に貢献することを切に願っている。必ず、わが国のためになり、世界のためになる。